

ほろけもん

323 くつ下



大崎短歌会

兼題「風・自由」

どの人の歌もよろしく日本の短歌
この世にある嬉しさや

春三月風は冷たく外壁に

小さき蚊一尾しがみつき居り

梅畑に茎を伸ばしてたんぽぽは

絮わた飛ばさんと風を待ちおり

甲子園球児びしよぬれ急激に

台風並の春の嵐に

風舞ひて菜の花ゆらり蝶々飛ぶ

穏やかな日々届け遠き地へ

最後なる子牛市場に出す朝あした

風が激しく木の葉揺すれる

原田葉子

上南紀子

山下海征

穂園芳江

井元かず子

本後淑子

新緑の冷泉の郷篠ん段

古人たちの寿の御湯

横瀬田はきれいに調整風渡り

早期田植えの始まるを待つ

土筆群るおおさき優し風までも

旅路歩める吾が身触れゆく

実吉安仁

坂元つる子

馬場みさ子

薩摩郷句

兼題「都合」

試着しちやくしつ やっぱい買わん 金の都合

(唱) 凄わづぜ欲しぱつ 少ちす高た価げけ過ぎつ

上窪小絵

病やんめ気どが 都合も考かげじ 寄よいてちつ

(唱) 今いま子こ育よて中 少ちす早はえが言ちつ

遠矢耐多

勝手耳 都合わん悪いい事こちや 聞きこたせじ

(唱) 耳みみな休やすんじや 何なにか言いたかよ

藤元鬼瓦

裏金も 都合つご良よ記憶きおつが 無なごつなつ

(唱) 東大出言とうだいでうごが 記憶きおか無などかい?

上村牛歩

飲いん都合ごごは 一いっも二にも無なし へつ付つけつ

(唱) 大て概げな都合ごごどま 明あ日して廻ませつ

諸木小春

大臣だいじんな 都合ごごん悪いり事こちや しれつたん

(唱) 他ひと人じん事ことじやろ 言ちをそな按あん排ぱい

二見愚楽満

今日きの試し合ご 都合つご良よ雨あめなつ 良よか休やすく日び

(唱) 寝ねたい起おきたい ゆゆつつくい出で来けつ

西ノ園ひらり

我わが都合ごごん 良よかごごつしちよい 家うの女め房ぼう

(唱) 決けめた後あとかい 伺うかがたてつ

満石うらら

宿むん亭てい主しゅ 都合ごごん悪いい事こちや 女め房ぼうけ頼たつ

(唱) お前ま言いつ来きち 我わが逃にげたくつ

長重リリー

嫌きらろた見み合あい 都合ごごが付つかんち 行いこたせじ

(唱) 相あ手て次じ第だいじゃ 行いつとじやろばつ

北村虎王